

# 玉燈

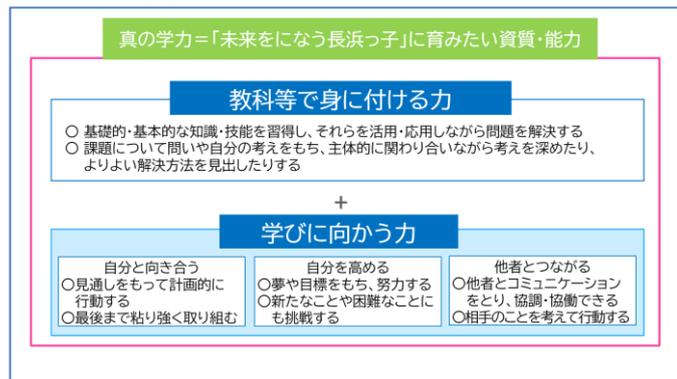
～タイトル「玉燈」によせて～

「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫斎の代表的発明品としても知られています。

## レジリエンスを育てる

長浜市教育委員会事務局  
教育センター所長 杉本 義明

長浜市では、『誰一人取り残さない教育の実現』を目指し教育活動を展開してきています。そこには「未来をになう長浜っ子」に育みたい資質・能力として、子ども一人ひとりが主体的に学び「真の学力」を身につけることによって、予測困難な社会を自らの力でたくましく生き抜いていってほしいという強い願いが込められています。



↑「真の学力」向上をめざすロードマップより

真の学力を身に着けるためには「教科等で身に付ける力」と「学びに向かう力」つまり、「認知能力」と「非認知能力」とが協働して発達していけるかが大きな鍵を握っています。両能力が相互に連携して働き、それぞれの能力を十分に発揮することが一人ひとりの自己実現、ウェルビーイングにつながることであり、どちらも疎かにできるものではありません。

今後、社会の状況がどのように変化していくかは、誰にもわかりません。世界規模、地球規模で考える時代でもあり、いっそう不透明です。そんな時代だからこそ、子どもたちがどんな環境で、どんな局面に立たされても、自分で問題を見つけ、それをどうやって解決していけばいいのかを考えて行動する力を持ち合わせていなければ、前に進むことができません。

さらに、一人でそれに挑むのではなく、他の人と共に取り組む力が不可欠になります。

そして、その前提として、折れてもまた立ち直れる心（レジリエンス）の育成が大切なのではないかと感じています。これからの時代を生きていくためには、逆境に対する精神的回復力、自発的治癒力、ストレスに対抗し再起する力、折れても再生する心、改めて「失敗こそ前進」だと伝えていかなければならないと思います。

レジリエンスを構成する要素は6つあり、これらを意識して育てることが大切です。

- ① 自己認識・・・自分を構成する要素（感情、思考、強み・弱み、価値観、目標・夢など）を知ること
- ② 自制心・・・様々な状況、環境に応じて、自分の感情や思考をコントロールすること
- ③ 楽観性・・・未来を良いものにすることが自分にはできるという前向きなスタンス
- ④ 精神的敏捷性・・・物事を多面的に捉え、冷静に思考し、速やかに対処法を考えること
- ⑤ 自己効力感・・・自分はできる可能性を有していることを認識すること、自分への信頼感を高めること
- ⑥ つながり・・・自分を支えてくれる他者の存在を認識し、精神的支えとなる思想信念などを育むこと

これらの要素を育てるチャンスは家庭生活の中だけでなく、学校園生活の中、授業・保育の中にもたくさんあるのではないのでしょうか。豊富な学びや体験を提供したいものです。小さな挑戦の繰り返しの中での、成功の喜びや失敗の体験を通して「逆境に負けない、折れても、何度でも立ち直れるしなやかな心」を育てたいと思います。

研究・研修室より

# 令和6年度長浜市教育研究発表大会



織田 恭淳 教育長

2月19日（水）に天候不良のため、急遽オンラインでの研究発表大会を開催しました。市外からもご参加いただき、盛大な大会が実現しました。ありがとうございました。現在長浜市内教職員向けに当日の講演内容と、続編として「知っておくべき法的な根拠」「不登校への対応」オンデマンド配信を開始しています。ぜひ、皆様ご覧ください。

## 教育講演会

### 子どもの自律を支える学校経営 ～生徒指導の手法・保護者対応～

元横浜創英中学・高等学校長 工藤 勇一 先生

ご多用の中、昨年度に引き続き長浜市教職員のためにご講演いただきました。「主体性」と「自主性」の違いや、教職員として、子どもたちや保護者にどのような対応が大切であるかを具体例を交えてご教示いただきました。特に、「受けて立つな、横に立て」「決して責めるな、横に立て」という言葉が印象に残っています。トラブルさえも子どもたちの自律の学びへとつなげる機会と捉え、児童・生徒、保護者との信頼関係をより深める成長の場としていくことの大切さを実感しました。

今回の講演を通じて、「教師主導の教育」から「子ども主体の学び」へと転換する重要性を再認識するとともに、従来の教育の在り方に疑問を持ち、新たな未来を切り拓く視点を得ることができました。木之本小学校 荒木 哲也 校長先生より「長浜市の子どもたちの未来のために、教職員一人ひとりが主体性と当事者意識を持ち、共に挑戦し続けましょう。」という力強いお言葉をいただきました。



木之本小学校  
荒木 哲也 校長先生

## アンケートより

- ・自分の「当たり前」に捉われずに、柔軟な視点から子どもたちを見取り、支援の仕方を考えていくことを意識したいです。
- ・トラブル対応の仕方、聞き取りの仕方、保護者への電話対応など、具体的に話していただいたので、共感するところがたくさんありました。話を聞きながら目に浮かぶ児童や保護者さんもあり、これからの対応について、「支援する」ということを意識して関わっていきたいと思いました。
- ・生徒指導に苦手意識があったのですが、自分の中で、今までで一番の納得解を得られたように思います。とても勉強になりました。
- ・今までの自分なりの教育観が良い意味で覆った。経験を重ねる中で知らずにこだわっていたところ、当たり前のように対応していたことが実は子どもたちにとってはマイナスに働いていたことを知ることができた。自分のエゴではなく、寄り添うとはどのようなことか、改めて考えることができた。保護者や子どもたちの横に立って、一緒に未来を夢見ていきたい。

## 研究・研修室より

# 令和6年度長浜市教育賞



受賞された先生方（敬省略）

今年度は市内校園から33本の応募をいただきました。「園庭環境」「学校経営」「学級経営」「授業改善」「学習指導」など様々な分野においての研究が見られました。「構成力」「表現力」「研究内容の充実度」など11の観点から厳正に審査させていただき、11名の先生方が入選されました。

ご報告いただいた論文は、先生方の現場での課題意識に基づく、素晴らしい内容でした。日々自己研鑽と実践を重ねておられることに敬意を表します。

学校・園実践部門 最優秀賞	びわ認定こども園 代表 池野 辰哉	わくわくと心動かし、主体的に遊ぶ子を めざして
学校・園実践部門 優秀賞	南郷里小学校 森田 博	心を動かし自分事で考え出す道徳科授業と、 考え・議論する児童の学び合う姿を目指して
個人実践部門 入賞	湯田小学校 森田 佑真	自己肯定感をはぐくむ学級経営 ～「できた」「認められた」が広がる学級～
	富永小学校 堤 有里紗	未来を切り拓く力を育む
	塩津小学校 松波 和樹	自ら学ぼうとする子どもの環境を整える
	神照小学校 町本 稜	学習習慣の確立と学習意欲の向上を図る 実践的研究
	東中学校 小山 智行	Qubenaの活用と学習成果についての検証
	小谷小学校 西村 万里子	『教頭の「働き方改革」と「働きがい」の ための実践的研究』
ユース実践部門 入賞	浅井小学校 谷川 紗世	「分かった!」「できた!」と実感できる 算数科学習
	神照小学校 倉辻 大成	国語科の授業改善に関する研究 ～自分の思いを適切な言葉を使って書き表し、伝え合う力の向上～
	神照小学校 古谷 あゆみ	子どもの「やりたい」を引き出す算数科の 授業

末尾ながら、本年度研修にご参加いただいた先生方、長浜市教育賞にご応募いただいた先生方、研究をはじめ諸事業でご協力いただいた先生方、そして、多大なるサポートをいただいた管理職の先生方に心よりお礼申し上げます。今後とも当センターの研究・研修事業に対しご支援を賜りますようお願いいたします。

# 誰一人取り残すことのない教育に向けて

発達支援グループでは、子どもの観察、検査、コンサルテーションや教育相談などを通して、たくさんのお子様たちや先生、保護者の方々と関わらせていただいています。ケースにより相談内容は様々ですが、最近よく相談をお受けするケースに子どものこのような特性が見られます。

- ・注目されようとわざと走り回る
- ・相手が悪いと自己正当化する
- ・鉛筆や消しゴムなどを舐める
- ・床に寝転ぶ
- ・季節に合わない服装(夏でも長袖)
- ・高いところに登る
- ・暴言を吐く

等

これらは、愛着障害、愛着の問題が関与しているアセスメントの項目から抜粋したものです。発達障害については専門家も多く、学校においても障害の特徴を踏まえた教育的支援が行われ、医療的支援とも連携がなされています。上記の行動は一見、発達障害が背景にあると捉えられがちですが、愛着との関連はないかということについても十分にアセスメントし、支援のあり方を考えていかなければなりません。子どもの気になる行動が愛着障害への対応の仕方で緩和することもよくあることです。

子どもの気になる行動が見られたら、特別支援コーディネーターを中心に校内の支援員会を開き、できるだけ多くの情報を集めてアセスメントすることが大切です。よりよい支援を一緒に考えていきたいと思っておりますので、必要に応じて教育センターにも相談していただければと思います。

今年度もたくさんのご理解、ご協力をありがとうございました。

校内支援委員会で...

- ・家庭環境、生い立ち、園での生活等の情報を大切に。
- ・これまでの検査結果があるならば、検査結果をもとに支援方法の見直しを。
- ・どのような支援？どのような指導？更に何か検査が必要？

一緒に考えていきましょう。

ぜひご相談を！

## 教育相談室 発達支援グループ

今年度、こどもサポートルームなないろには54名（小17名・中37名）の通室生が通ってくれました。また別室サポートとして、10名の児童生徒への支援として学校に出向き、子どもたちと学校との関わりに携わらせていただきました。子どもたちは、保護者のみなさまの励ましの中で気持ちの安定をはかり、活動を継続することができました。また、子どもたちが学校復帰を果たしたり、あらゆる面で成長したりすることができたのは、学校の先生方の温かな関わりのおかげです。ありがとうございました。



今年度は新しい取り組みとして、なないろDAYを実施しました。通室生同士が小さな集団の中で交流を図ることを目的として、計10回、のべ44人の児童生徒が参加しました。

また、2月には、体験なないろDAYとして、学校に行きにくさを抱える市内小中学生を対象としたイベントを実施しました。参加の保護者さまからは「こんな場所があるとは知らなかった。体験できて良かったです。」との声をいただきました。

誰一人取り残すことのない教育に向けて、こどもサポートルームなないろが多様な学びの一助となるよう取り組んで参ります。来年度も学校の先生方や保護者のみなさまとともに、子どもたちの明るい未来に向かって共に歩めるグループを目指します。

## 教育相談室 登校支援グループ

